

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100305		
法人名	社会医療法人孝仁会		
事業所名	グループホームはまなすの家星が浦		
所在地	〒084-0912 北海道釧路市星が浦大通3丁目9番9号 (電話) 0154-55-6256		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】 (平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	4月	15日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	17 人	常勤	14人,	非常勤 3人, 常勤換算 10.71人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	7,000 ~10,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名	
要介護1	1名	要介護2	4名			
要介護3	7名	要介護4	4名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	80.8歳	最低	62歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星が浦病院、中谷歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設して9年が経過しており、利用者の身体機能の低下に伴い、浴槽を手すりが多数付いた広いものと取り替え、エレベーターを設置するなど、利用者及び職員の負担軽減を図っている。母体の医療法人の病院、訪問看護ステーションが併設しており、往診や指示を得られる連携体制が整っていることは、利用者、家族に安心を与え、信頼関係を築いている。職員は、積極的に研修会、勉強会を受講し、ケアサービスに活かし実践している。利用者は、家庭的な環境の下で安心して日常生活を送っており、その人らしい生活の継続が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題として、自己評価への取り組みが挙げられていたが、今回は全職員で取り組んでいる。また、災害対策についても、体制の整備に取り組んでいる。重度化や終末期のあり方についての方針は、今後も共有に向けて取り組むことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組んでおり、職員会議等で検討している。また、職員の働く意欲を高め、利用者の言動を常に考慮しながら尊厳をもった対応に活かせるよう、取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月毎に運営推進会議を開催している。会議には、家族会代表、町内会長・婦人部長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所からは、ホーム長、管理者、介護計画作成担当者、介護職員が参加し、事業所の取り組み状況等の報告、意見交換を行うとともに、災害時の協力を依頼している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年1回家族アンケートを実施して、意見、要望、苦情、不満の把握に努めている。アンケート結果は、職員検討会議等で話し合うほか、状況に応じて担当職員が家族を訪問して、意見等を聴き、運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、ラジオ体操、盆踊り、新年会、敬老会等の町内会行事に参加している。近隣住民や学生ボランティア、児童館の子供達との交流等もあり、毎月の町内会の会報には交流の様子が掲載されている。事業所で採れた野菜を近隣住民に配ったり、園芸作業や漬け物づくりの時には、近隣住民がボランティアとして来訪している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中には「地域の中で」との内容は取り上げていないが、事業所で毎年立案する事業目標では、明文化している。	○	理念の中にも、地域との関係を重視する内容を明文化することを検討予定であり、今後の取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所内の各ユニット等に掲示している。管理者は、理念が日々の実践と結びつくよう努力している。しかし、職員間で十分に理念を共有するまでには至っていない。	○	管理者は、今後更に職員との理念の共有を図り、実践に結びつくよう努めることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の一員として町内会行事へ参加している。また、近隣住民や学生ボランティア、児童館の子供達との交流等を行っており、交流の様子は毎月の町内会の会報で紹介されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価については、全職員で意見交換をしている。働く意義を高めたり、利用者への対応に活かす機会にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の取り組み状況等を報告、意見交換を行っている。会議での内容は、職員に回覧し、定例会議等で話し合うなど、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と、随時電話等で連携を図りながら、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所発行の「はまなす通信」で、利用者の日常の様子や健康状態、行事の報告等を行うとともに、金銭出納帳のコピーを家族に送付している。また、家族の面会時に近況報告等をするほか、利用者の状況に変化があったときは、その都度、電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートを実施して、意見、要望、苦情、不満の把握に努めている。結果は台帳に記録するとともに、職員検討会議で話し合い、運営に反映させている。また、担当職員が家族訪問をして意見等を聴いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は、最小限に抑えるように努めている。異動がある場合には、引継書に基づいて、2週間の引継期間を設けるなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、法人内研修、相互研修、外部研修等を積極的に受講し、技術、知識の向上に努めている。また、受講後は、報告書を全職員に配布するとともに、定例会時には、他職員へ研修内容を報告するなど、共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道東ブロックのグループホーム協議会に加入しており、相互研修や勉強会に参加して同業者との交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。さらに、SOSネットワークに加入するなど、地域や同業者と連携を図る取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が事前に事業所を下見に訪れ、日常の雰囲気を見学したり、利用者と一緒にお茶を飲みながら話をするなど、馴染めるよう配慮している。本人、家族と相談しながら、納得した上で利用を開始するよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一緒に生活する家族として利用者と共に支えあうという視点を持っている。野菜づくりなどの園芸や、魚のおろし方、漬物づくりといった調理等、利用者が得意なことを職員は学んだり、楽しみや喜びを共にしながら、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントツールを使用しながら、利用者との日常の会話等から思いの把握に努めている。また、介護計画作成時や家族の面会時に、本人、家族の希望や意向を聞き取っている。なお、聞き取りが困難な場合は、本人の意向に沿うよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見、希望を聞き取るとともに、ケアカンファレンスを開催して、介護支援専門員、職員、訪問看護師等と話し合い意見やアイデアを参考にしながら、よりよい支援を目指した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、利用者の退院等の状況に応じて、本人、家族、職員、介護支援専門員、訪問看護師と話し合うとともに、日誌、個別ケアチェック表、職員間ノートを利用しながら、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じた通院介助、入院見舞い、昔住んでいた場所や馴染みの場所へのドライブ等、柔軟な支援をしている。また、母体法人所有のパークゴルフ場で、近隣住民とパークゴルフを楽しんだりもしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、同一敷地内に病院、訪問看護ステーションが併設され、往診や指示を仰げる体制が整っており、利用者や家族への安心感に繋がっている。また、歯科や皮膚科の往診のほか、かかりつけ医への通院についても支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、利用者、家族の意向を聞き取り、把握に努めている。	○	年々重度化傾向にある利用者もおり、本人や家族等、訪問看護師、主治医、協力医と連携しながら、重度化や終末期のあり方についての方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけや対応の徹底を図っている。また、経過記録、家族情報等の個人情報は、適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、就寝等の時間や、食事にかかる時間等は、利用者一人ひとりの生活リズムをできるだけ実現できるように配慮しており、希望に沿って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員間で検食簿を共有しながら、利用者の好みや希望も採り入れ献立を立てている。また、利用者の状況にあわせ、食事の準備、盛り付け、配膳、片付け等を、職員と一緒に楽しみながら行うよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は設定しておらず、利用者の体調や希望に合わせて、いつでも入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から、生活歴や趣味、得意なこと、楽しみごとを聞き取り、パークゴルフ、カラオケ、映画、カメラ、園芸、ぬり絵等、利用者一人ひとりの力を発揮できる場を提供するなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に沿って、買い物、散歩やドライブにでかけたり、法人所有のパークゴルフ場で近隣住民とパークゴルフを楽しむなどの外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関ドアにはチャイムを設置しており、職員は出入りを把握しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練を年1回実施している。さらに、事業所には緊急連絡簿を備えており、緊急時には医療機関と連携が取れる体制ができている。運営推進会議等でも、近隣住民からの協力が得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容検討委員会を設けて、医師の指示を基に減塩食を提供したり、食事や水分摂取量、栄養バランスについて、利用者個々に記録している。また、一人ひとりの状態に合わせて、きざみ食、とろみ食を用意するなど、それぞれに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下、階段の壁に、季節感を採り入れた飾り付けをしたり、利用者や職員が撮った行事の写真等を掲示して生活感を感じられるように努めている。また、光に配慮した電球を使用するとともに、日々の音は最小限になるよう気を付けるなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者や家族と相談しながら、家族の写真や絵を飾ったり、馴染みのぬいぐるみ等を置いている。また、使い慣れたタンス等を持ち込んでおり、本人が安心して居心地よく過ごせる配慮をしている。		

※ は、重点項目。